

疑いもない事実であり、専門とする臨床科での専門医資格修得が後期専門医研修の主目標であることは明白と思われる。

各専門医修得までのプロセスを考えるため、一例として内科系を検討すると、まず基礎領域の認定内科医を修得し、いわゆる二階建て方式で各専門医資格を修得すること、認定内科医までは最低4年、各専門医まではその後3年、すなわち最短でも専門医を修得するためには初期研修終了後5年間の後期専門研修が必要であることが判る(図2)。この状況は、外科系でも他の臨床科でも同様であり各専門医資格修得には、後期専門研修開始から最低でも5、6年以上は必要とされる。専門とする臨床科での学位取得、専門技術取得や人格形成なども後期専門研修の目標と考えられるものの、首都圏や大都市の大規模研修病院後期専門研修期間は5年以下か殆どであり、その施設での各専門医資格修得は難しいと思われる。しかし、関連病院での研修を含む新潟大学医歯学総合病院後期専門研修では、どの臨床科も6年以上のプログラムを組み、研修期間内の専門医資格修得が

可能となり、その他、学位取得や専門性の高い高度な医療技術の修得、関連病院との協力での様々な研修といった専門医修得以外のことも十分できるように配慮されていて、後期専門研修の目的は十分に果たせるものとなっている。

新潟県の調査による初年度臨床研修医終了医師の進路先は、現在の所属病院別では、大学病院が43名、大学病院以外が40名、現在行っている後期専門研修プログラム別では、大学病院プログラムが71名、それ以外が12名である。初期臨床研修をおこなった施設別では、大学病院が36名、県内病院が42名、県外が5名ある。前述したように、このままでは、今後この医師数も減少する可能性が高いと考えられ、県内の医師数を増加に転じるためには、十分な専門医制度の把握・理解そして後期研修内容の更なる充実を行い、さらに魅力的な後期研修プログラムを作り出し、その内容を全国の卒後研修医や医学生に発信/宣伝を行ってゆくことが重要と思われる。そして、新潟県以外からの後期専門研修医数と新潟県内での卒後臨床研修医数の増加を謀って行くことが肝要と考える。

2 新潟大学内科における後期専門研修の取り組み

— 腎・膠原病内科を中心に —

成田 一衛

新潟大学第二内科

Senior Residency Program for Nephrology and Rheumatology in Internal Medicine Niigata University

Ichiei NARITA

*Division of Clinical Nephrology and Rheumatology,
Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences*

Reprint requests to: Ichiei NARITA
Division of Clinical Nephrology and Rheumatology
Niigata University Graduate School of
Medical and Dental Sciences
1-757 Asahimachi - dori Chuo - ku,
Niigata 951-8510 Japan

別刷請求先：〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学医歯学総合研究科 腎・膠原病内科学
成田 一衛

要 旨

平成 18 年度私共は、卒後臨床研修必修化による 2 年間の新しい研修プログラムを終えた医師（後期研修医）を初めて迎えた。従来主流であった大学内 4 内科のうち 2 つの内科を研修するプログラムに比較すれば、医療全般を幅広く経験することが可能となった。反面、経験する内科領域の症例数は減少した。特に治療に長期間を要する疾患や、一般内科外来での医療について研修する機会は、なくなった。したがって、現在の（前期）卒後臨床研修プログラムの特性を有効に活かすためにも、狭い臓器別専門領域に偏ることなく、後期研修の初期においては内科一般を広く経験させる必要があると考える。

キーワード：卒後臨床研修、後期専門研修、内科、内科認定医、内科認定専門医

後期研修とは

“後期研修”という用語の定義は、調べ得た範囲ではどこにも示されていない。しかし、一般的には卒後臨床研修（すなわち前期研修）後の、医師としての研修をすべて含んだものとして、ここでは定義される。つまり、卒後 3 年目以降、内科の場合はそれぞれの専門領域の学会認定専門医の資格を取得するまでのすべての期間をさす。後期研修を終えた医師は、臨床医として一般内科および専門領域の患者を診療し、教育機関・教育病院において後身の指導を行い、さらには研究・学会活動を通して、内科学の発展・進歩に寄与する人材となる。

専門医に必要な条件

専門領域とは具体的に臓器別・分野別の各学会を指すが、日本内科学会が指定する 13 の関連学会のうち（表 1）、どれかあるいは複数にわたって入会し、そこで認定専門医の資格をとることが、後期研修の一つの具体的な、しかも多くの研修医が掲げる目標となる。

さて、これらの関連 13 学会では、いわゆる“2 階建て制度”を設定することにより、専門医の前提として同じ条件を要求している。その前提となる条件を下記にまとめる。

1. 内科系 subspecialty 学会の専門医研修年限を 6 年に統一。
2. 資格取得：内科及び内科系 subspecialty 学会の専門医資格取得は、認定内科医の資格取得を

条件とする。

3. 認定更新：各内科関連専門医の資格更新に加え、認定内科医の資格更新を条件とする。

上記から分かるように、日本内科学会認定内科医であることを、資格取得時ならびに更新時に要求している。したがって、内科における後期研修の第一ステップは、認定内科医の資格を取得することとなる。この認定には、図 1 に示す研修施設での研修と、各分野にわたる経験症例の入院サマリー（適切な文献的考察を含む）の提出が求められる。その上で筆記試験を受ける。さて、図 1 に示すように、受験資格は早いものでは卒後 3 年終了時、すなわち後期研修 1 年で可能となる。

しかしながら現実には、前期研修の 2 年のうち、他分野での研修期間があるため（それ自体が卒後臨床研修必修化である）、内科での研修は 6～12 ヶ月程度であり、実際には前期研修の期間プラス 1 年では不足する分野が生ずることが多いと考えられる。したがって、特に後期研修の初期においては、幅広く内科全般を研修するか、もしくは前期研修で不足した分野を重点的に研修するべきであると考えられる。

表 1 日本内科学会指定 13 関連学会

• 日本消化器学会	日本アレルギー学会
• 日本循環器学会	日本リウマチ学会
• 日本内分泌学会	日本感染症学会
• 日本腎臓学会	日本糖尿病学会
• 日本呼吸器学会	日本老年医学会
• 日本血液学会	日本肝臓学会
• 日本神経学会	

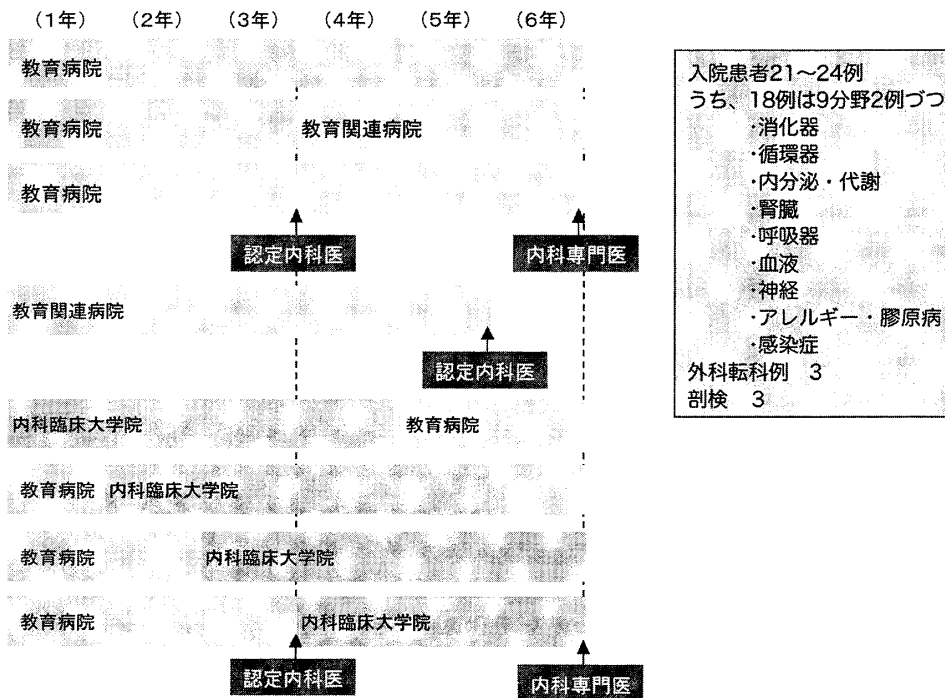


図1 受験資格に必要な研修期限と症例要約

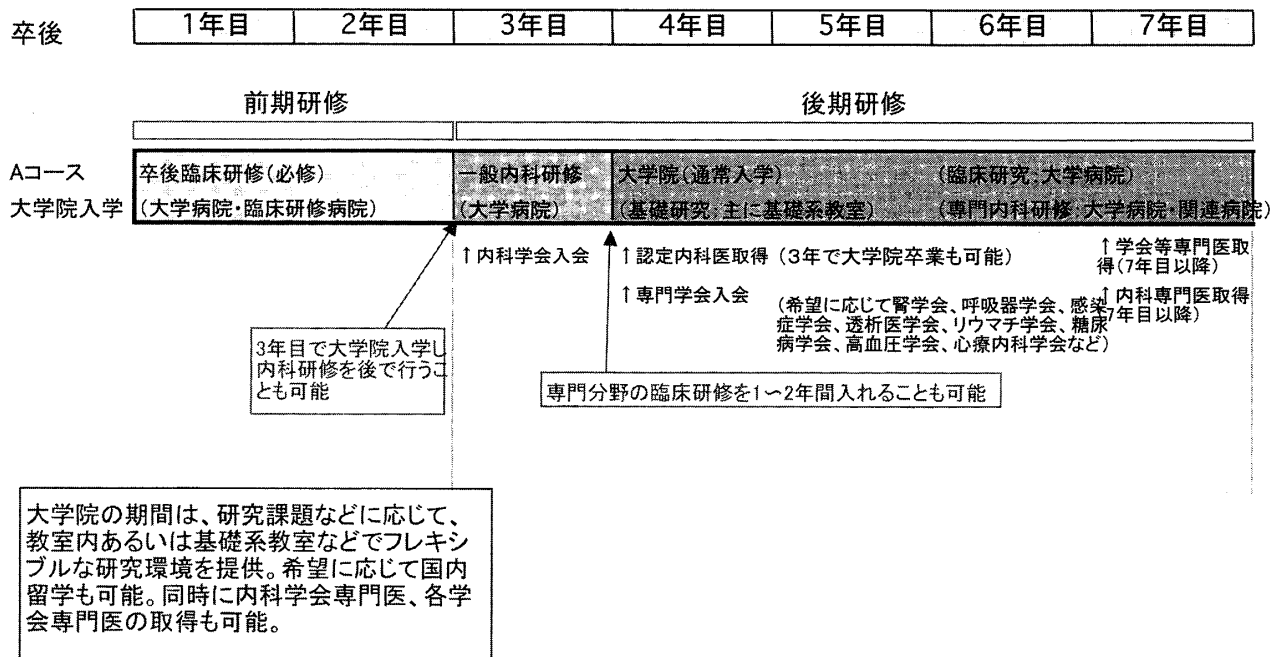


図2 腎・膠原病内科における研修プログラムの1例

腎・膠原病内科における研修プログラム

図2は、私共の腎・膠原病内科（第二内科）における研修プログラムの例を示す。後期研修1年目は一般内科研修の期間とし、前期研修が修了した若い医師のそれぞれの個性・希望に合わせて、しかも幅広い内科各分野の研修が可能となるように、関連病院での研修を行っている。私共では、この認定内科医を全員が取得できるように指導し、その上で、各専門領域の専門医ならびに内科認定専門医を取るようになる。

医歯学総合病院（大学病院）での研修の特色

医歯学総合病院での研修のメリットは、それぞれの分野の研究・教育に携わる豊富なスタッフが

身近にいることであるが、もう一つ重要なことは、リサーチマインドを育むことができる点であろう。どの分野においても、現在の最新の知識・技術は、将来必ず古いものになる。伝統の上に、新しい医学知識や医療技術を開発し、臨床に応用するのは、これからの若い医師たちである。今後の医学・医療の発展には、そのような若い医師たちの情熱と姿勢が不可欠である。その意味で、大学での研修では、（社会人入学も含めて）大学院医歯学総合研究科における研究期間も含まれると考えている。最近の若い医師には専門医指向が強いといわれており、それを否定するものではない。しかし、大学での研修の特色を十分に活かすには、専門医を取得するにとどまらずに、リサーチマインドを持つ将来を担う医師・医学者を輩出する必要があると考える。

3 新潟大学外科学教室における後期専門研修への取り組み 第1外科の取り組みを中心として

白井 良夫

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野（第1外科）

Residency Program for Digestive and General Surgery in Niigata University Medical and Dental Hospital

Yoshio SHIRAI

*Division of Digestive and General Surgery,
Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences*

要 旨

新潟大学外科学教室は「1教室3講座制」を採用しており、卒後臨床研修において3講座

Reprint requests to: Yoshio SHIRAI, M.D.
Division of Digestive and General Surgery
Niigata University Graduate School of
Medical and Dental Sciences
1-757 Asahimachi-dori Chuo-ku,
Niigata 951-8510 Japan

別刷請求先：〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学大学院医歯学総合研究科 消化器・一般外
科学分野（第1外科） 白井良夫